

3 競技施設の後利用

1 概要

東京 2020 大会に向けて、確実な進行管理、適切な情報公開により、新たに競技施設を整備した（新規恒久施設等）。

新規恒久施設については、「新規恒久施設の施設運営計画」を踏まえ、戦略的な活用策を検討し、大会後も有効に活用していく。

また、多摩地域の核となるスポーツ拠点を形成するとともに、既存スポーツ施設のバリアフリー化や区市町村のスポーツ施設の整備支援などの基盤整備を進める。

2 レガシーの概要

東京 2020 大会時、選手の能力を最大限に引き出し、観客が快適に観戦できる競技環境が整備される。

大会後も、新規恒久施設はアスリートの育成・強化のほか都民のスポーツの拠点として活用されるとともに、文化・イベント、青少年教育等で多目的に利用されるなど、都民・国民に末永く親しまれ、有効活用される。

その他のスポーツ施設についても、改修に合わせバリアフリー化が進むなど、多くの都民が快適にスポーツに親しめるよう機能強化が図られ、東京のスポーツ拠点が拡充される。

利害関係者	民間事業者、競技団体 等
種別	まちづくり
地理的範囲	東京都
期間	長期
実施主体	東京都
根拠	立候補ファイル、2020 年に向けた実行プラン、「未来の東京」戦略
関連する SDGs	3-保健、7-エネルギー、10-不平等、17-実施手段

○ 各エリアにおけるレガシー

競技施設周辺の様々な施設と連携し、地域における面的に広がりのあるレガシーを形成

<臨海スポーツゾーン>

- 有明レガシーエリア

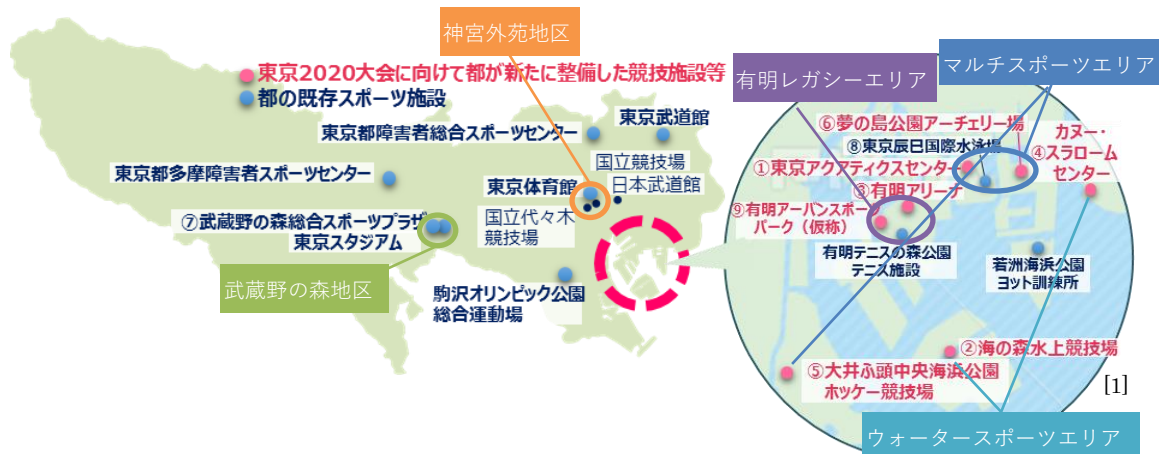
- ▶ 大会シンボルや仮設スポーツ施設の移設、スポーツカフェ・ショップ等の設置により、アーバンスポーツゾーンが形成される。
 - ▶ 5G や AR などの最先端技術を活用し、有明アリーナが最先端スマートアリーナとなる。
 - ▶ 有明親水海浜公園（仮称）を整備・拡張し、広くスポーツに親しむ記念公園となる。
 - ▶ 魅力的な水辺空間で、大会関連施設を中心に、商業施設とも連携した様々なイベントを開催するなどにより、にぎわいを創出するエリアになっている。
- **マルチスポーツエリア**
 - ▶ 東京辰巳国際水泳場が都立初の通年アイスリンクとして転換されるなど、様々なスポーツ施設、隣接する公園等が連携し、相互利用の促進や大規模大会、イベントの開催など、都民の多様なスポーツ活動の拠点として広がりのあるレガシーが形成される。
 - **ウォータースポーツエリア**
 - ▶ 都心に近接し、ボート、カヌー、ラフティング、ヨットなど、様々な水上スポーツを総合的に楽しめるエリアが誕生する。

<神宮外苑地区>

- 大規模スポーツ施設や公園など、既存施設の再編・整備が進み、にぎわいと風格を兼ね備えた世界に誇れるスポーツ拠点が形成される。

<武蔵野の森地区>

- 多摩地域のスポーツ拠点として武蔵野の森総合スポーツプラザ、東京スタジアムと周辺の公園が一体となって利用され、多くの人々がスポーツに親しんでいる。



[1] 「未来の東京」戦略（東京都）を一部修正

3 詳細な説明

(1) 背景

東京 2020 大会の競技施設について、可能な限りコストを削減するとともに、大会時だけでなく、大会後を見据え、末永く親しまれ有効に活用される施設として整備する必要がある。

(2) 時期

2014 年度	「新規恒久施設等の後利用に関するアドバイザリー会議」設置 ※幅広い知見を持つ専門家から意見を求め、新規恒久施設等の後利用の方向性についてブラッシュアップを図ることを目的として設置
2015 年度	「新規恒久施設に係る後利用の方向性」公表 ※「新規恒久施設等の後利用に関するアドバイザリー会議」の意見を踏まえた東京都としての後利用の方向性をまとめたもの
2016 年度	「新規恒久施設の施設運営計画（中間のまとめ）」公表 ※東京アクアティクスセンター、海の森水上競技場、有明アリーナ、カヌー・スラロームセンターの 4 施設について新規恒久施設の施設運営計画（中間のまとめ）をとりまとめたもの
2017 年度	「新規恒久施設の施設運営計画」策定 ※これまでの検討結果を取りまとめ、大会後の施設運営の指針となるもの（東京アクアティクスセンター、海の森水上競技場、有明アリーナ、カヌー・スラロームセンター、大井ホッケー競技場、夢の島公園アーチェリー場の 6 施設）
2018 年度	新規恒久施設（有明アリーナ除く）の指定管理者を指定 有明アリーナの公共施設等運営権者の候補者を選定（コンセッション方式）
2019 年度	有明アリーナの公共施設等運営権実施契約を締結 全ての新規恒久施設等の整備完了

(3) 実施主体

東京都

(4) 実施方法

- 競技施設について、アスリートファーストの理念の下、最高の競技環境を実現するとともに、観客にとっても快適に観戦できる施設として整備

した。整備にあたっては、可能な限りコスト削減に努めるとともに、外部の意見等も参考にしながら、東京 2020 大会後も多くの都民に利用され、親しまれる施設となるよう、民間事業者の活用など様々な手法を用いた。大会後の戦略的な活用策を検討し、都民の貴重な財産として未来へ継承する。(※「5 都が整備した新規恒久施設等」参照)

- 臨海部の競技施設については、東京の水辺空間を生かした新たなにぎわいの創出につながるレガシーとしていく。また、競技施設に隣接する公園をはじめとした地域資源や、周辺まちづくりとの連携を進め、面的に広がりのあるレガシーを形成していく。
- 大会の都有会場等に、大会前までに観客向け無料 Wi-Fi を整備するとともに大会後は観客向け無料 Wi-Fi をレガシーとして運用する。
- 予約システムやキャッシュレス決済の導入・対象拡大により、都有スポーツ施設の利便性を向上する。
- ネーミングライツの導入等により、都有スポーツ施設の収益向上を図る。
- 有明アリーナにおいて、大会の仮設撤去・後施工工事を実施するとともに、コンセッション方式による管理運営の下で、民間事業者と協力し 5G や AR などを活用したイベント等を開催する。
- 東京アクアティクスセンター、夢の島公園アーチェリー場、カヌー・スラロームセンター、大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場、海の森水上競技場において、大会後の仮設撤去・後施工工事等を実施、指定管理により運営する。
- 大会で使用した仮設施設を活用し、有明アーバンスポーツパーク(仮称)を整備する。
- 東京辰巳国際水泳場を、東京 2020 大会後に都立初の通年アイスリンクとして転換する。
- 武蔵野の森総合スポーツプラザとラグビーワールドカップ 2019™ の会場となった東京スタジアムを一体として多摩地域のスポーツ拠点形成する。
- 東京スタジアム内の室内施設について、パラスポーツ練習拠点としての活用に向けた検討を行う。
- 神宮外苑地区においては、新国立競技場の建設を契機に、大規模スポーツ施設の更新を促進し、歴史的景観の維持・保全を図りながら、新たな魅力・にぎわい・風格を兼ね備えたスポーツクラスター*を形成する。
- 新国立競技場への歩行者ネットワーク・たまり空間を整備する。
- 都立スポーツ施設について、老朽化への対応や利用者の利便性の向上を図るため、改築・改修を実施した。

- 区市町村立スポーツ施設について、都民の誰もが身近な地域で利用しやすくなるよう、競技スペースや利用機会の拡大、トイレの洋式化等のバリアフリー化など、利用環境を向上するための工事を支援する。
- 大会後の競技施設の有効活用や一層のスポーツ振興を図るため、国際大会の誘致・開催に対する支援を実施する。

(5) 便益

競技会場の整備が完了し、選手の能力を最大限に引き出し、観客が快適に観戦できる競技環境が整う。

東京 2020 大会後も、新規恒久施設はアスリートの育成・強化のほか都民のスポーツの拠点として活用されるとともに、文化・イベント、青少年教育等で多目的に利用されるなど、都民・国民の貴重な財産として有効活用される。

その他のスポーツ施設についても、改修に合わせバリアフリー化が進むなど、多くの都民が快適にスポーツに親しめるよう機能強化が図られ、東京のスポーツ拠点が拡充される。

4 事実と数字

競技会場の整備	全 1 1 施設 整備完了 (2020 年 5 月末時点)
競技施設の後利用	<ul style="list-style-type: none"> ・新規恒久施設(有明アリーナ除く)の指定管理者の指定 (2018 年 10 月 5 日) ・有明アリーナの管理運営事業について、P F I 法に基づく公共施設等運営事業 (コンセッション方式) として実施することを決定 (2018 年 5 月 28 日) ・有明アリーナ管理運営事業について、公共施設等運営権者の候補者を決定 (2019 年 3 月 29 日)、公共施設等運営権実施契約を締結 (2019 年 7 月 30 日) ・新規恒久施設(有明アリーナ除く)の開業、指定管理開始 (2019 年度中)
神宮外苑地区のまちづくり (a 地区)	<ul style="list-style-type: none"> ・出来形確認測量を実施 (2018 年 4 月～9 月) ・換地計画図書作成 (2018 年 10 月～2019 年 3 月) ・事業計画変更認可申請 (2019 年 3 月) ・区画道路工事完了 (2019 年 12 月) ・換地処分 (2019 年 12 月) ・土地区画整理事業終了認可 (2020 年 11 月)
神宮外苑地区のま	・まちづくり検討会を設置

ちづくり（b地区）	<ul style="list-style-type: none">・まちづくり指針（素案）パブリックコメント実施・「東京 2020 大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」策定・公表・都市計画手続に向けた関係者間協議
-----------	--

（表中、個別に記載のない事項は 2020 年 3 月までの実績）

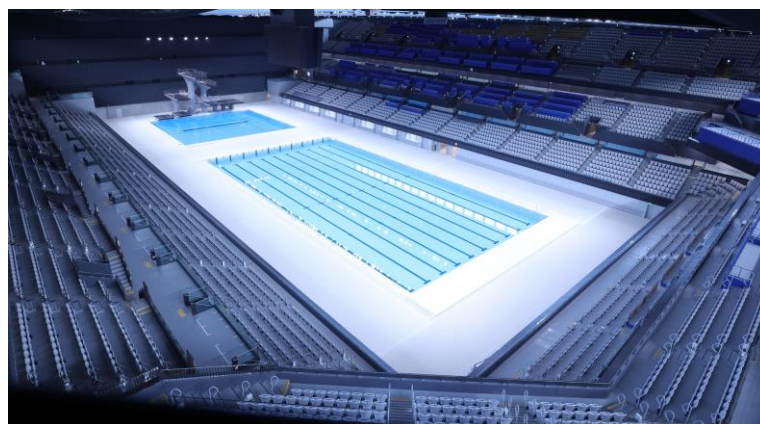
5 都が整備した新規恒久施設等

<東京アクアティクスセンター>

大会の実施競技	オリンピック	水泳（競泳、飛込、アーティスティックスイミング）
	パラリンピック	水泳
施設概要	メインプール（50m×25m、10レーン、観客席 約5,000席）、サブプール（50m×25m、10レーン）、ダイビングプール（25m×25m×5m）、スタジオ等	
利用計画	競技利用のほか、サブプール、スタジオ等を中心に一般利用でも活用	
レガシー	<p>日本水泳の中心となる世界最高水準の水泳場</p> <ul style="list-style-type: none"> • 国内外の主要な競技大会を開催 • 選手たちの競い合いを通じて、世界を目指すアスリートを育成 • オリンピック・パラリンピックや国際大会を契機に、水泳の裾野拡大と次世代のアスリート候補を育成 	



[2]



[3]

(2020年2月時点)

[2] 「未来の東京」戦略（東京都）

[3] 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ

https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/taikaijyunbi/taikai/kaijyou/kaijyou_18/aqua_kouji/index.html

<海の森水上競技場>

大会の実施競技	オリンピック	ボート、カヌー（スプリント）
	パラリンピック	ボート、カヌー
施設概要	競技コース（2,000m、ボート・8レーン、カヌー（スプリント）・9レーン）、グランドスタンド棟（観客席約2,000席等）、艇庫棟（艇庫、シャワー・更衣室、食堂等）	
利用計画	春から秋頃まで、世界・全国レベルの様々な水上競技の大会を開催するほか、年間を通じて練習や合宿等を実施 夏季を中心に一年を通して、水上スポーツ体験などのレクリエーション等で活用	
レガシー	アジアの水上競技の中心となる国際水準の水上競技場 <ul style="list-style-type: none"> • 様々な水上競技の大会開催や強化合宿等を通じたアスリートの強化、育成 • 水上スポーツ体験の機会提供等による水上競技の裾野拡大 • ユニークベニューとしても活用 	



[4]



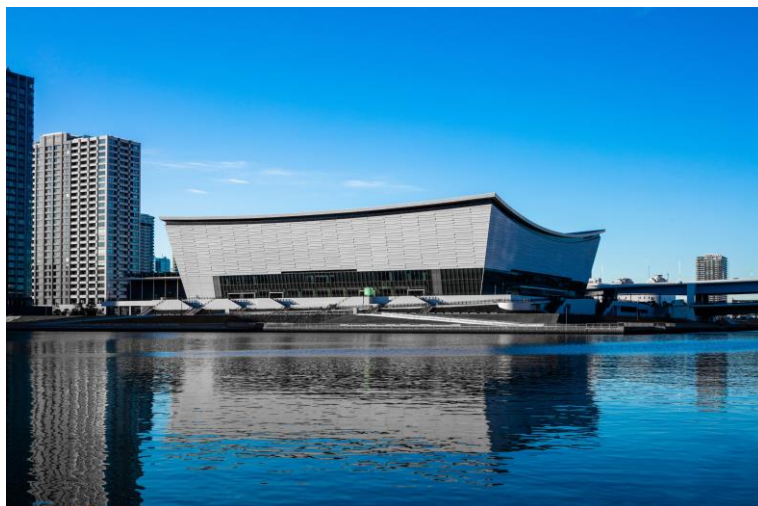
[5]

[4] 「未来の東京」戦略（東京都）

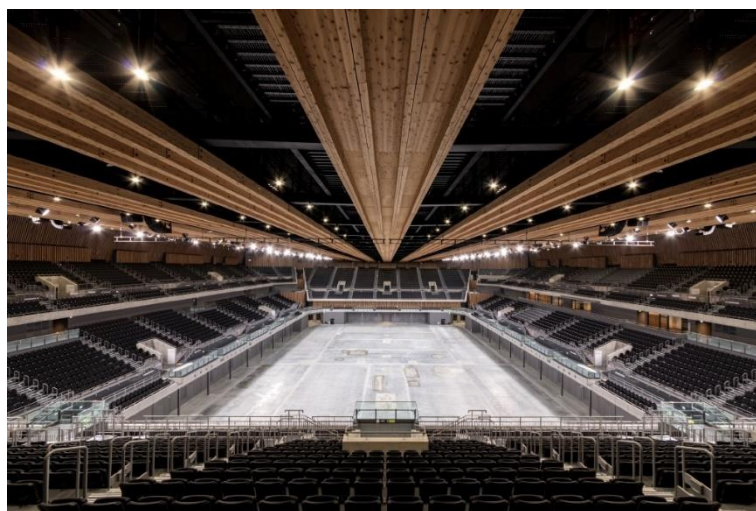
[5] 東京都提供

＜有明アリーナ＞

大会の実施競技	オリンピック	バレーボール
	パラリンピック	車いすバスケットボール
施設概要	メインアリーナ（約 4,100 m ² 、観客席 約 15,000 席（仮設席を含む）、サブアリーナ等	
利用計画	大規模スポーツ大会やコンサート等の開催のほか、都民が様々なスポーツ・文化活動に親しめる場を提供	
レガシー	<p>東京の新たなスポーツ・文化の拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際大会など質の高いスポーツ観戦機会の提供によるスポーツムーブメントの創出 コンサート等のイベント開催による東京の新たな文化発信拠点 5G や AR などの最先端技術を活用したイベント等の開催 	



[6]



[7]

[6] 「未来の東京」戦略（東京都）

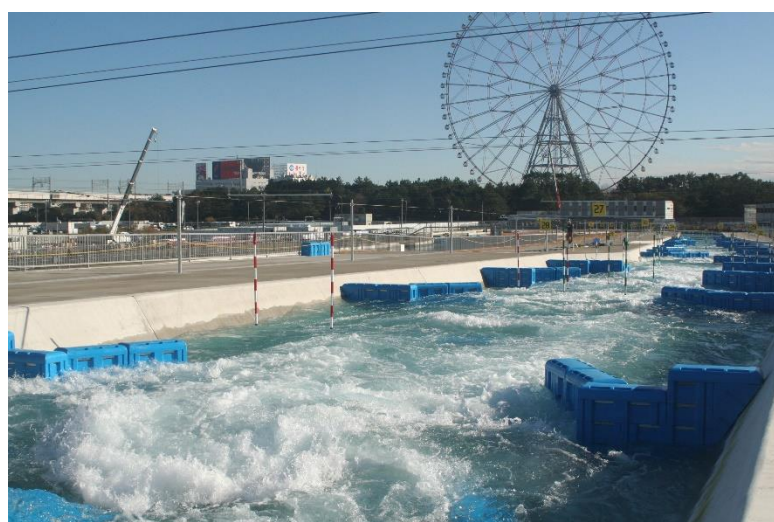
[7] 東京都提供

<カヌー・スラロームセンター>

大会の実施競技	オリンピック	カヌー（スラローム）
施設概要	競技コース（長さ約 200m×幅約 10m）、ウォーミングアップコース（約 180m）、フィニッシュプール等	
利用計画	競技利用のほか、ラフティング等の水上レジャーや水上スポーツ体験、水難救助訓練等、様々な活動を実施	
レガシー	<p>国内初の人工スラロームコースを活用した様々な水上スポーツ・レジャーを楽しめる施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定した競技環境の下でアスリートを強化、育成 様々な水上スポーツ体験や水上レジャーの機会を提供 	



[8]



[9]

[8][9] 「未来の東京」戦略（東京都）

＜大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場＞

大会の実施競技	オリンピック	ホッケー
施設概要	メインピッチ（観覧席 約 2,600 席）、サブピッチ（観覧席 約 500 席）	
利用計画	ホッケーの競技力強化と普及・振興の場とするとともに、都民が幅広く様々なスポーツを行うことができる場として活用	
レガシー	<p>ホッケーをはじめ、様々なスポーツで利用できる多目的球技場</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数少ない公共のホッケー競技場として、ホッケーの競技力強化と普及・振興の場 • 都民が幅広く様々なスポーツを行うことができる場、そして、公園内の他施設と連携し、総合的なスポーツ・レクリエーション*の拠点を形成 	



[10]



[11]

[10] 「未来の東京」戦略（東京都）

[11] 東京都提供

＜夢の島公園アーチェリー場＞

大会の実施競技	オリンピック	アーチェリー
	パラリンピック	アーチェリー
施設概要	芝生広場（一部築山）、日よけ屋根等	
利用計画	アーチェリーの競技大会を春から秋にかけて開催し、その他にもイベント等で利用	
レガシー	<p>アーチェリーを中心に、都民・公園利用者に対し多様な活用の機会を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> • アーチェリーの主要な競技大会の会場として活用 • 芝生広場として多様な活用を図り、夢の島公園と一体となり都民に憩いの場を提供 	



[12]



[13]

[12] 東京都提供

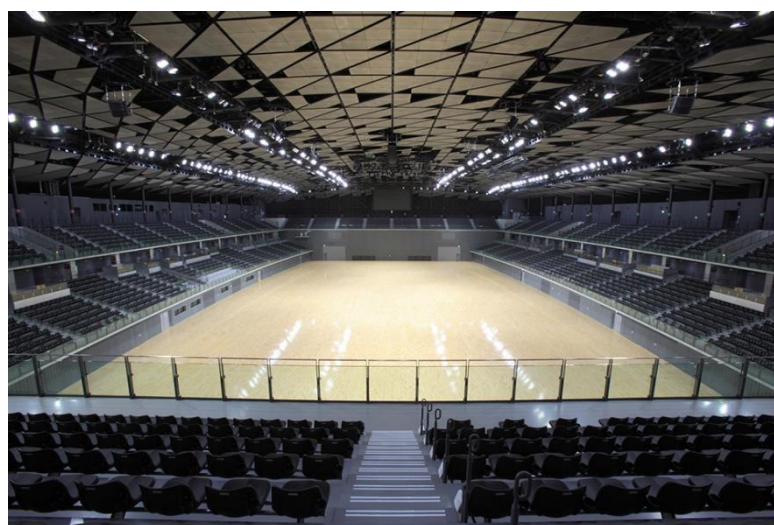
[13] 「未来の東京」戦略（東京都）

<武蔵野の森総合スポーツプラザ>

大会の実施競技	オリンピック	バドミントン、近代五種（フェンシング）
	パラリンピック	車いすバスケットボール
施設概要	メインアリーナ（約4,900㎡、最大収容人員10,000人以上）、サブアリーナ、プール（50m×20m、8レーン）等	
利用計画	競技大会の開催のほか、コンサート等のイベントや個人利用でも活用	
レガシー	多摩地域のスポーツ拠点として、屋内競技の国際・国内大会の開催や、都民が日常的に利用できる施設として活用	



[14]



[15]

[14] 東京都オリンピック・パラリンピック準備局事業概要（令和2年度）（東京都）

[15] 東京都提供

<東京辰巳国際水泳場後利用施設（アイスリンク施設）>

大会の実施競技	オリンピック	水泳（水球）
施設概要	メインリンク（60m×30m）、サブリンク（47m×17m） 観客席約5,000席以上（仮設席含む）	
利用計画	転用工事を行い、アイスリンク施設（通年）として活用	
レガシー	夏のレガシーから冬季スポーツでの活用に転換	



※2019年1月時点の大会後イメージ図^[16]

6 用語説明

スポーツクラスター	大規模スポーツ施設を中心とした様々な施設の集積
スポーツ・レクリエーション	スポーツとして行われるレクリエーション活動

7 参考文献

- ・2020年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－（PR版）
- ・2020年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－（本編）
- ・都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020年に向けた実行プラン～
- ・「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（平成30年度）
- ・「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（2019年度）
- ・「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（2020年度）

[16] 東京都スポーツ振興審議会（第27期第2回）配付資料（東京都）

- ・「未来の東京」戦略
- ・新規恒久施設の施設運営計画
- ・都市づくりのランドデザイン